

# 本ばこ

## —新刊教材・図書紹介—

「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。誌面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、「海外の先生にとって使いやすい教材」「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っているとな便利な図書・資料」などを取り上げます。

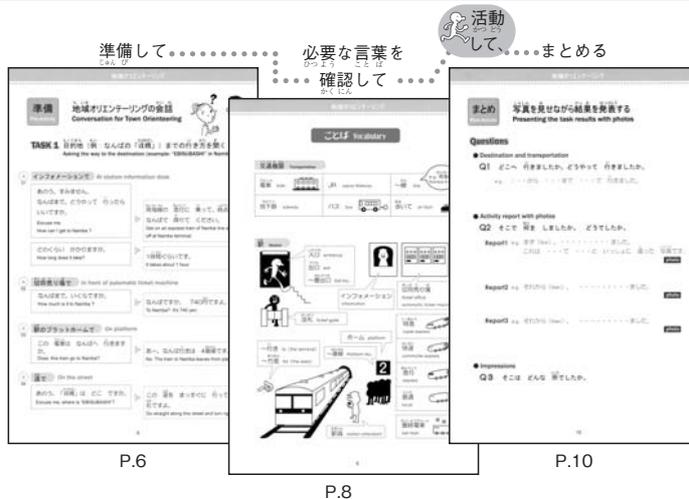
※データ凡例 ①著者 ②出版社 ③刊行年月 ④ISBN ⑤判型・ページ数 ⑥定価 ⑦その他

教室の「ウチ」と「ソト」をつなぎ、活動中心のコースをつくるためのアイデア満載

### 『日本語ドキドキ体験交流活動集』



●データ●  
**①** 国際交流基金関西国際センター熊野七絵、品川直美、田中哲哉、中島透、西野藍、羽太園、しながわおみ、たなかてつや、なかじまとおる、にしのおい、はぶその、矢澤理子 **②** 株式会社凡人社 (〒102-0093 東京都千代田区平河町1-3-13) TEL. 03-3263-3959 FAX. 03-3263-3116 URL. <http://www.bonjinsha.com> **③** 2008年9月 **④** 978-4-89358-685-8 **⑤** B5判 178頁 **⑥** 2,520円 **⑦** CD1枚



国際交流基金関西国際センターでは、海外の大学や高校で日本語を学ぶ学習者を対象とした短期訪日研修を行っています。この教材は「日本を体験したい!」「日本人と交流したい!」という海外の学習者のニーズに応えるために、関西国際センターで行われてきた体験交流活動を中心としたコースのアイデアを教材化したものです。初級から中級まで幅広いレベルの学習者に、またレベル差があるクラスでも使うことができます。

### ▽教室の「ウチ」と「ソト」をつなぐ

学習者が教室の外に出て、あるいは外にあるリソースを活用しながら日本語を学ぶために、地域オリエンテーリング、交流会、インタビュー、学校訪問など11の活動例を紹介しています。  
 1) 教室で準備する、2) 外で体験・交流する、3) 教室に戻って体験したことをまとめる、という一連の流れの中で、総合的に日本語を使うことができます。また、活動をコーディネートする教師のために時間配分やスムーズに実施するためのコツも盛り込まれています。海外の現場でも在住日本人と交流を行ったり、日本食スーパーなど教室外リソースを活用したりする際のヒントになるでしょう。

### ▽PowerPointで日本を紹介する

活動の前に日本の文化、社会の基礎知識を紹介するためのガイド用資料もあります。テキスト以外にも、クイズや写真を多用したPowerPoint版がCD-ROMに収録されています。伝統文化から歴史、教育、そして若者ことば、アニメ・マンガまで、簡単な日本語で楽しく紹介することができます。これにより、学習者の興味や問題意識が高まるため、活動に主体的に取り組み、日本の文化や社会への理解をより深めることができるでしょう。

### ▽活動中心のコースをつくる

活動を中心としたコースでは、どのような評価を行うかが問題となります。この教材では学習者自らが学習目標を立て、日々の活動を記録し、自己評価を行い、教師がそれを支援するための

ノウハウをワークシートとともに紹介しています。

体験交流活動を通じた日本語学習は、①何のために何を学ぶかが明確なため、学習の動機づけが高まり、主体的に取り組める、②日本語環境における行動力がつく、③各自の日本語レベルに合わせた日本語運用体験ができ、達成感がある、④活動を通じて自らの日本語力を確認できる、⑤教室外の人や社会に触れることで、日本についての理解を深めることができる、といった利点があります。クラスの活性化や動機づけのため、また日本文化や社会の理解のために参考にしてみてはどうでしょうか。

1. 体験交流活動	2. コースデザイン	3. Nipponガイド
① 地域オリエンテーリング	① コースを始める	① 日本の地理
② ご近所オリエンテーリング	・アイスブレイク	② 日本の歴史
③ タウンページを作ろう	・インタビューと学習相談	③ 方言 (関西弁)
④ 交流会	・自己目標を書く	④ 若者ことば
⑤ ホームステイ	・活動記録をつける	⑤ ホームステイ
⑥ フィールドトリップ	② コースを終わる	⑥ 日本の教育
⑦ インタビュー	・自己評価をする	⑦ アニメ・マンガ
⑧ 小学校訪問	・学習計画を立てる	⑧ 伝統芸能
⑨ 高校訪問	・最後の学習相談	⑨ 茶道
⑩ 工場見学	・研修アンケート	⑩ 華道
⑪ 発表会	③ コースデザイン例	⑪ 書道
		⑫ 着付け

目標と学習方法をわかりやすく示した中級教科書

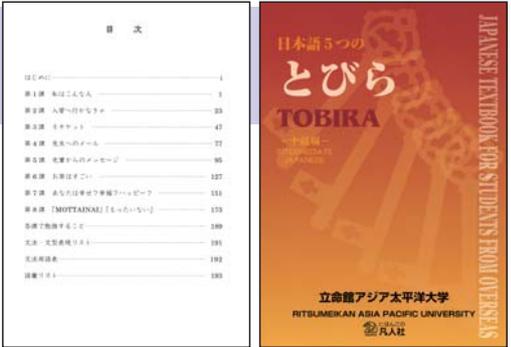
『日本語5つのとびら (中級編)』

●データ●  
**1** 立命館アジア太平洋大学「日本語5つのとびら」編集委員会 **2** 株式会社凡人社  
 (〒102-0093 東京都千代田区平河町1-3-13)  
 TEL. 03-3263-3959 FAX. 03-3263-3116  
 URL. <http://www.bonjinsha.com> **3** 2008年4月  
**4** 978-4-89358-659-9 **5** B5判、196頁  
**6** 1,995円

文型練習と簡単な会話を中心に学んできた初級が終わって、中級では何を目標にして教えたらいいのか、どんな教科書を使ったらいいのか、悩んでいる先生は少なくありません。本書は、各課の目標(読解、書く、話す)がわかりやすく示されていて、技能の具体的な練習がある、学びやすい中級教科書です。著者らによると、この教科書の対象は日本の

大学で学ぶ留学生で、大学で専門的な授業を受けられるようになることをめざすとありますが、以下のような目標をかかげていることから、海外で中級以上に進む学習者にも適していると言えます。

- 相手や場面によって適切な言葉や表現を使い分けて話す
  - 構成や流れを考えながら話したり書いたりする
  - 要点をつかむことを目的にして長いテキストを聞いたり読んだりする
- 各課の構成は、以下のようになっています。「この課で勉強すること」…その課の具体的な目標を紹介する  
 「聞く」…本文を聞いて要点をつかむ  
 「読む」…前作業や後作業のある読解練習  
 「日本語を知ろう」…日本語に関する知識を増やす



「表現練習」(書く・話す)…場面や目的のはっきりとした技能の練習  
 「文法・文型練習」…中級の文法・文型の練習  
 なお、聴解教材やモデル会話を聞いたり、練習問題の解答を確認したりすることができるウェブサイトも用意されています。  
 この教材には、中級編の次のレベルとして中上級編があり、それぞれに本冊と漢字・語彙練習の本があります。また、日本の大学に入学したばかりの学生のためのサバイバル編もあり、全部で5冊のシリーズになっています。

中級学習者のための、聴解教材がCD付きで内容も一新  
 『中級日本語音声教材 新・毎日の聞きとり50日 上・下』

●データ●  
**1** 宮城幸枝、太田淑子、柴田正子、牧野恵子、三井昭子 **2** 株式会社凡人社(〒102-0093 東京都千代田区平河町1-3-13)  
 TEL. 03-3263-3959 FAX. 03-3263-3116  
 URL. <http://www.bonjinsha.com> **3** 2007年6月  
**4** 上巻 978-4-89358-632-2、下巻 978-4-89358-633-9 **5** B5判 62頁(上巻)、64頁(下巻) **6** 2,100円 **7** CD1枚

本書は、16年前に出版された教材の改訂版です。改訂のポイントは、内容が一新したこととカセットテープがCDになったことで、教材制作のコンセプトは変わっていません。

- 初級段階が終わると、身近なものから公共性の高いテーマが増え、深い内容の理解や抽象的な表現の習得が目標となるため、学習の中心が文字言語になる傾向にあります。しかし、本書がねらいとしているように
- 「論旨が明快で、より基本的な語彙と文で構成されている短いテキストをたくさん聞き」
  - 「日本語の文や文章の組み立て方、話の進め方、日本人の考え方に触れること」(本書「まえがき」より)

は、中級から上級へ進むための基盤作りとなります。ですからテキストの種類もダイアログより説明や解説スタイルのモノログが多くなっています。ただし、テーマは「弁当の日」「コンビニ図書館」「『もったいない』を国際語に」など日本に関するものを中心に学習者が興味を持てそうなテーマが選ばれています。

上巻、下巻それぞれ25課ずつですが、1課の本文の録音時間は1分から2分半程度とコンパクトな作りになっています。

- 1課の構成は、「タイトルと写真やイラスト」「はじめに」「内容に関する選択問題と要約文の空欄に適語を記入する問題」から成っています。
- 巻末に語彙表があり、別冊として本文のスクリプトと問題の解答があります。漢字にはすべてルビが振られていますから自習用に使っていただくこともできます。また、教師の工夫によって、単に聴解練習としてだけでなく「音声言語のインプット



として活用し、内容について話したり、表現法や漢字語を覚えたり、文法の復習に使ったりするなど多面的(本書「この教材を使う先生方へ」より)な活動に利用できるようになっています。

**2. 旗のデザイン**  
 (CD④)聞きましよう  
 問題: この旗は誰がデザインしたのか、その旗のデザインを説明してください。正しい旗のデザインを選んでください。

この旗は、まっすぐなオリーブの旗が上下に並んでいて、真ん中には赤い旗のデザインが描かれています。その旗のデザインはオリーブの旗のデザインと同じです。オリーブの旗は赤い旗のデザインと同じです。

この旗は、真ん中に赤い旗のデザインが描かれています。その旗のデザインはオリーブの旗のデザインと同じです。オリーブの旗は赤い旗のデザインと同じです。

この旗は、真ん中に赤い旗のデザインが描かれています。その旗のデザインはオリーブの旗のデザインと同じです。オリーブの旗は赤い旗のデザインと同じです。

**3. 海からの便り**  
 (CD⑤)聞きましよう  
 問題: この便りは誰が書いたのか、その便りの内容を説明してください。正しい便りの内容を選んでください。

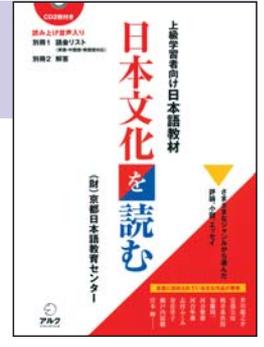
この便りは、海からの便りです。その便りの内容は、海からの便りです。その便りの内容は、海からの便りです。その便りの内容は、海からの便りです。

この便りは、海からの便りです。その便りの内容は、海からの便りです。その便りの内容は、海からの便りです。その便りの内容は、海からの便りです。

この便りは、海からの便りです。その便りの内容は、海からの便りです。その便りの内容は、海からの便りです。その便りの内容は、海からの便りです。

読解素材の魅力を重視した教材

『上級学習者向け日本語教材 日本文化を読む』



●データ●  
**1** (財)京都市日本語教育センター 西原純子、井上真理、吉田道子 **2** 株式会社アルク (〒168-8611 東京都杉並区永福2-54-12) TEL.03-3323-5514 FAX.03-3323-2021 URL: http://www.alc.co.jp/ **3** 2008年10月 **4** 978-4-7574-1473-0 **5** B5判、148頁 **6** 2,520円

指針を与えてくれるかもしれません。収録されている文章は評論家、小説家、学者によるものであり、18編中、評論が8編、エッセイが5編、文学作品が5編あります。「よい文章」といっても、人によって感じ方も異なり、定義するのは難しいかもしれません。しかし、ここに収められているものはいずれも一定レベルの質を持った作品と言っていいでしょう。

置いた教科書であるためか、読む前や読んだ後の活動は含まれておらず、必要に応じて教師が作成していかなければなりません。教師の楽しみといえないでしょうか。

「日本語をさらに上達させるためにはどうしたらいいですか。」

「文章をたくさん読むといいです。」  
 「では、どんな文章を読んだらいいでしょうか。」  
 「そうですね…」

と問いかけて困ってしまうことが多いですね。皆さんも、日本の本が手に入りにくかったり、たくさん本がある中から何を读んでいいのかわからなかったりすることがありませんか。

この教科書は、読解から読書へ導くひとつの

各編は、現在の文芸作品の多くがそうであるように、たて書きで印刷され、本文の下の欄には、内容に関する注、問い、まとめの問題が載っています(別冊解答付)。本文の最後には出典と著者紹介も掲載されています。

また、読み上げ音声収録されたCDと本文の語彙リスト(英・中・韓国語訳)が付録として付いています。

日本語学習を超えて、日本語の文章を味わい、読書を広げていくきっかけになることでしよう。

本書は、質の高い文章を提供することに主眼を



分かりやすい文章の書き方から、学術論文を書くまでをステップで『これから研究を書くひとのためのガイドブック』



●データ●  
**1** 佐渡島紗織、吉野亜矢子 **2** 株式会社hituzi 書房(〒112-0011 東京都文京区千石2-1-2大和ビル2F) TEL.03-5319-4916 FAX.03-5319-4917 URL: http://www.hituzi.co.jp/ **3** 2008年5月 **4** 978-4-89476-368-5 **5** A5判 274頁 **6** 2,100円 **7** CD1枚

なっています。「導入」:その章で学ぶ主要な内容がクイズ形式で出題されています。「練習問題」:学習した内容の理解を確認するための練習問題です。「アクティビティ」:学習者のレベルや、書く目的に応じて選択できるように、複数の活動が提示されています。

できます。本書はひろく日本語の「書くこと」の指導の場にも活用できるでしょう。文章編の「一文一義で書く」や「マップを作って書く」「パラグラフを作る」「主張を根拠で支える」「論点を整理する」などは、大学のレポートなど学術的な文章を書くための入門的なスキルでもあります。

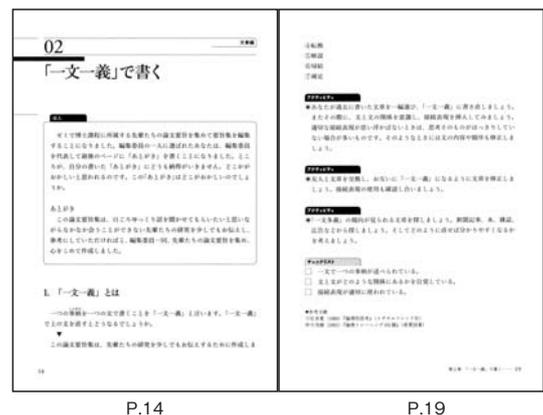
本書は、日本の大学や大学院で研究をする人、研究をする人を育てる人のために書かれたものです。本書の構成は、第一部の「文章編」と、第二部の「論文編」からなっています。「文章編」では、分かりやすい文章・学術的文章の書き方についての基礎的なスキルが紹介されています。「論文編」は、より専門的な領域として、文献研究と実証研究の二つを取り上げ、学術論文を書くための共通のステップとそれぞれの研究に必要な要素が丁寧に紹介されています。

「チェック・リスト」:その章で学習した内容が自分の文章に反映されているかどうかを自己点検することができます。上記の「アクティビティ」では、例えば、学習した内容を踏まえて自分の文章を実際に直してみるセルフ活動や、友達と交換して修正するピア活動、さらに、新聞や雑誌など実際の文章を通して学習を発展させる活動などが挙げられています。また、付属CD-ROM

には、各コーナーの解答と解説、「追加アクティビティ」や「配布資料」などが掲載されており、自習用としても活用

本書の特徴は、「文章編」と「論文編」がそれぞれ15週間(半期)の授業で使えるようにしてある点です。各章の構成は、次のように

には、各コーナーの解答と解説、「追加アクティビティ」や「配布資料」などが掲載されており、自習用としても活用



P.11~13は日本語国際センター・関西国際センターの以下の専任講師・専門員が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。

熊野七絵、八田直美、三原龍志、生田守、金孝卿(執筆順)